国語 (HFJE) (出題の意図)

問題 1

本問は、ある能力 (ネガティブ・ケイパビリティ) に関する著者自らの体験をふまえた論考を読み、それを身につけることの必要性和困難さについての理解を問うものである。ネガティブ・ケイパビリティすなわち答えの出ない事態に耐える力が、物事の本質理解に到達する際に果たす役割を理解し、それを具体的にも、抽象的にも記述できる力を評価することを目的としている。

問一 文中に用いられている漢字 (熟語) を正確に書くことができるかどうかを問うものである。いずれも平易な漢字で構成された熟語である一方で、正解するには、文脈と漢字の持つ意味を正確に捉える必要がある。

問二 著者が自身の経験から感じた精神医学の限界について具体的に説明することを求めている。傍線部直後の段落を要領よくまとめるとともに、問われているのがそれに対する著者の心情ではなく、限界そのものだということを把握できているかが重要である。

問三 本文の内容をふまえて、詩人と精神科医が、自らが目指すものを希求すればするほどどのような状態に陥るために、ネガティブ・ケイパビリティが必要とされるのか、その共通点を記述する問題である。指定文字数を最小限にすることにより、記述内容を端的に抽象化することができるかどうかを問うている。

問四 著者の心境が何に由来するものかを本文の内容をふまえて記述することを求めている。傍線部がまさしく著者がネガティブ・ケイパビリティを発揮したことによるものだという把握できているかどうかを問うている。

問五 本論考を通して主張されている、ネガティブ・ケイパビリティを身につけ、発揮することの困難さと必要性をまとめて記述することを求めている。困難さと必要性は、いずれもネガティブ・ケイパビリティとは裏返し能力、すなわち「分ろう」とする生物としての方向性に基づき、「分かった」つもりになる迅速処理との対比によって論じられており、両者を明確に記述ができるかどうかポイントとなる。

問題 2

出題文は代表制と民主主義の一致点と異なる点に着目し、代表制には非民主的な要素があるものの、それが民主主義に資するものであることを論じたものである。本問では比較的長文の、思想や政治的考察にかかわる文章を短い時間で的確に読みこなし、内容について正確な記述ができるかを主眼としている。

問一 文中に用いられている漢字を正確に書くことができるかを問うものである。いずれも人文系の文章にとって基本となるものである。

問二 代表制と直接民主制の異同を正確に読み解いているかを問うものである。市民の意志が重視される点では一致するものの、代表制では意志よりも判断を重視し、民意を反映しない点では異なる点を理解できたかがポイントとなる。

問三 本文中に付された傍線部分の文章の意味を正しく理解しているかを問う問題である。

代表制と直接制が同等な制度であり、代表と有権者の見解に優劣はつかないこと、またその理由を踏まえた上で、相互補完的な関係にあることを説明できているかがポイントとなる。

問四 本文中に付された傍線部分の文章の意味を正しく読み解き、文章全体の要点を理解しているかを問うものである。筆者は本文中で代表制の意義について 2 ヶ所で言及している。それを読み取り、整った文章を自ら構築することができるかを問うている。

問題 3

出典は平安時代の女流日記文学であり、中宮への出仕についての書き手の複雑な心境が描かれている。本問では、古文の基本的な語彙や文法を踏まえ、文脈を把握しながら心情表現を読解する能力が身についているかを問うた。

問一 基本的な古文単語について、文脈に応じて適切に現代語訳できるかを問う問題である。

問二 基本的な古文単語の知識を踏まえ、該当部分に記される心情を適切に説明できるかを問う問題である。なお、本問は続く問三の解答の前提となるものである。

問三 問二の内容を踏まえ、該当部分の要点を適切にまとめられるかを問う問題である。

問四 基本的な古文単語・文法の知識を踏まえ、適切に現代語訳できるかを問う問題である。

問五 比喩表現を含む和歌について、詠み手の心情を理解して適切に現代語訳できるかを問う問題である。